

長中魂



平成28年11月28日(月)

第23号

伊豆の国市立長岡中学校だより
文責 守野 和弘

授業の充実《道德》

中学校では平成31年より「**特別の教科 道德**」が完全実施となりますが、これを機に、次のようなことが求められています。

これまでの道德の授業では、一概には言えませんが、読み物の登場人物の心情の読み取りに偏っていることはなかったか、自分の考えとの違いがあっても望ましいと思われる考えを言わなければならない雰囲気はなかったか等の反省点がありました。よって、生徒に道徳的な判断力・実践力等を育てていくには、登場人物を離れ、自分ならどのように行動・実践するかを考え、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的諸価値について多面的・多角的に学ぶ授業への改善が求められています。一言で表すならば、「**考え、議論する**」**道德科への転換**です。

11月22日(火)に、3つの学級で、その転換を意識した道德の授業が行われました。

「二通の手紙」～1年3組～



～法ときまりの意義について考える授業である。
ストーリー：『動物園の入園終了時刻が過ぎたとき、弟が誕生日という姉弟が入園させてほしいと頼んできた。窓口係の元さんは、迷った末に動物園の規則を守らずに特別に中に入れてあげたが、閉園時刻を過ぎても2人は戻ってこなかった。職員が探してようやく遊んでいるところを見つけた。数日後、親子で来れなかった事情と感謝の書かれた手紙が元さんに届いた。元さんは停職処分となった。』～

この「姉弟を入園させた元さんの判断は正しかったのだろうか。」について考え、「正しい」、「正しくない」に分かれて議論し合いました。「動物園内のルールだから、お客様のために例外があってもよいではないか。」「事情があれば入れていいのか。他の入れない人が不公平ではないか。」などの意見の応酬がありました。以下、授業の振り返りを紹介します。



- 元さんの判断はとても勇気のある判断だったと思います。ルール上はいけないけど、人としては間違った判断とは思いません。
- きまりは基本的には守るものだけれど、中には事情があつて守らない場合もあるのではないかと感じた。その判断を何を基準にしてするのか、それを考えることが大切だと思う。
- きまりは大切で、守らないといけないものだけれど、もし、許してしまったらまわりの人がどうなるのか、いろいろな人の立場で考えることが大切だ。

「『富』は誰のもの??」～2年4組～

～公平・公正について考える授業である。
「マイケル・ジョーダンの年収は7800万ドル（約80億円）、ビル・ゲイツの総資産は400億ドル（約4兆円）、これらは才能を生かして、努力して稼いだお金である。」さて「『富』を貧しい人に分け与えるべきだろうか。」と問われ、自らの考えを書いた後、議論した。～

「与えない」と考えた生徒からは、「せっかく稼いだのにお金がなくなったらやる気がなくなる。」「与えるなら、全ての人に分け与えないと不公平だ。」等の意見が、「与えるべき」と考える生徒からは、「お金は余っている。使い切れない。」「貧しい人がかわいそうだ。」などの意見のやりとりがありました。以下、授業の振り返りを紹介します。



○私は「富」を分け与えるべきだと思う。現金ではなく、物（食料、薬など）に換え、その場に必要な物を渡すのがよいと思う。また、工場など現地の人たちが働いて、生きていく環境を作っていくことも大切だ。私は平和な国に生まれて何も不自由なく今まで暮らしてきた。だから、少しでもいいから誰かのためになることをして役に立てるようになりたい。募金にも参加していきたい。

○もし、私が生きていくことに精一杯のような貧しい人だったら、少しでも分け与えてくれるとうれしい。人が困っていたら、少しでも役に立てるようになりたいと思った。

「一座建立」～2年2組～



～公徳心及び社会の連携について考える授業である。公の場（食堂）で騒いでいる子どもを放置している親にたいして青年が大きな声で注意したら、雰囲気は気まづくなり、その家族だけでなく周りの人たちも帰って行ってしまった。注意すべきか、注意すべきでないのかを考えた。～これについて、「マナーを守れていないのを分かってもらうために、注意した方がよい。」「大声で注意したら、こいつ何様だ?という雰囲気になる。」「みんなの前では言わずに、親だけに分かるようにすべきだ。」等の意見が出ました。

以下、授業の振り返りを紹介します。

- 庭園で立て札がなくてもゴミは捨てない。注意しなくても社会のルールが守れるようになるのが一番良い。私も気をつけていきたい。
- 私は、この青年みたいに注意できないけど、せめて、自分は人に流されず、ちゃんと正しい方向に向かっている人でありたいと思う。そういう「空気」をつくりたい。

今後も、道徳の授業がよりよいものになっていくために、研修を深めていきたいと考えています。